

教育的価値	具体の項目	教育課程
2【かかわる】	⑪【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、 他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	総合的な学習の時間

【題材】 多くの人との豊かなかかわりと自己実現
 講演会「本気で人と向きあう素晴らしさ～宿泊支援での出会い」

【対象】

全校生徒163名、保護者

【実践の概要】

- (1) 日時・・・平成26年7月2日（水）13:40～15:00
- (2) 会場・・・本校体育館
- (3) 講師・・・一関市在住 藤野静枝 氏（世界児童文化ボランティア、「富二屋旅館」女将）
- (4) 内容

①講演

- ・人形劇との出会い
- ・世界児童文化ボランティアとしての活動
- ・東日本大震災でのボランティア
（名古屋市派遣職員の受け入れ）
- ・夢をもって生きるすばらしさ

②質疑

③お礼のことば

④閉会のことば



＜生徒の感想～抜粋～＞

- ・被災地支援で働く方々のためにボランティアをするなんて、とても優しい人だと思いました。人に優しくできるってすごいなあと思います。
- ・どんなことでもチャレンジして、たとえ失敗してもポジティブにとらえていくことが大切だと思いました。僕も人を助けられるような人間になり、明るく元気に生きていきたいし、世の中も平和になっていけるといいなあと思います。



＜まとめ＞

東日本大震災発生後、ご自身も被災されたにもかかわらず、名古屋からの被災地支援ボランティアの方々を受け入れ、親身になってお世話をされた時のエピソード。世界児童文化ボランティアとして、10カ国においてその言語での人形劇に挑戦し、世界中の子どもたちを笑顔にする活動の継続。テンポの良い腹話術と笑顔で、前述の貴重な体験についての講話を通し、勇気や元気をいただきました。そして、どんな逆境におかれても目標と希望を失わずに生きることの大切さを学び、生徒たちの感想から自分たちも誰かのために本気で向き合い、かかわろうとする意識の変容がうかがえました。



教育的価値	具体的項目	教育課程
2【かかわる】	⑫【自分と地域社会】 自然災害が暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。 ⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	総合的な学習の時間

【目的】・地域社会の一員として郷土についての理解と愛情を深める。

- ・実際に被災地を訪問し、自分の目で見て耳で聞いて肌で感じるにより、今自分にできることや将来の生き方について考える機会とする。

【実践の概要】

	全校生徒	1 学年	2 学年	3 学年
時期 内容	4、5 月 【伝統芸能の継承】 ・総踊り（なにやとやら） 地元の方々のご指導により、地域に古くから伝わる芸能を習得し、運動会当日、練習の成果を地域の方々に披露する。 ・総踊りリーダーを中心に継続した活動になっている。	1 1 月 【野田村研修視察】 ・昨年に引き続き、実際に被災地に行き、その地域のことや住んでいる人々の現状を知る。 ・復興に向けた地場産業や三陸ジオパークなどの取り組みについて、実際に体験したり、見学したりすることによって理解を深める。	5 月、6 月、1 0 月 【米作り講演会】 【田植え】【稲刈り】 ・地元の営農組合の方から「いわてっこ」の特徴や、地域農業の現状について講演していただき、米作りについての知識を深める。 ・実際に田植えや稲刈りの体験を通して、自分たちで作物を作りあげる喜びや苦労を知り、来年度への意欲化を図る。	4 月 【修学旅行米販売】 ・米の販売体験 ・東京の地で、地元営農組合の協力を得ながら、販売を体験することで、地域の誇りやよさを再確認し、生産者と消費者の立場で、食の安全を考える機会にする。 ・アンテナショップや都内スーパーに分散して販売実習をすることで働くことの喜びや苦労を学ぶ。



【全校 総踊り「なにやとやら」】



【1 年野田塩づくり工房見学】



【1 年 仮設住宅見学】



【1 年 野田村研修】

【1 年 野田村研修感想～抜粋～】

- ・野田村と久慈市に行き、震災でどのような被害があったのか、また津波の怖さをあらためて知ることができました。
- ・復興に向けた地場産業や三陸ジオパークの取組に参加し、その地域の現状を知ることができました。
- ・津波の恐ろしさを知ることができたし、日々の訓練の大切さも学ぶことができました。



【2年米作り講演会】



【2年 田植え体験】



【2年米作り講演会感想 ～抜粋～】

- ・米作り講演会では「いわてっこ」などのお米を作るにあたり農薬を使わなかったり、鶏糞の肥料を使っていたりすることがわかった。また、農家が減って土地が余っているということを初めて知った。そして、社会などで学習した「地産地消」をすることで二戸市を活発な町にしていきたい。
- ・二戸市海外発信事業では、岩手のブランド品の漆や米、酒が注目されていることもわかった。そして、これから行う田植えなどの作業は指示をしっかりと聞いてテキパキ行動しておいしい米を作りたいし、来年の販売体験では、自分の地域をわかってもらえるようにしっかりPRしたいと思った。



【3年 米販売体験】



【3年米販売体験感想～抜粋～】

- ・銀河プラザに入った時は「全部売り切ることにはできるかなあ」と心配になりましたが、すぐに「全部売り切てやろう」という気になりました。路上でチラシを配ったり宣伝をしたりしましたが、自然と明るく大きな声でやることができました。
- ・最初は緊張しましたが、徐々に慣れて米販売をすることができました。とても貴重な経験でした。

【まとめ】

- ・各学年毎年行っている活動ではあるが、復興教育における「教育的価値」や「具体的項目」を意識して指導にあたることで、より活動の目的が明確になり、生徒の感想や行動の変容にも表れていることを実感した。
- ・「地域の方々とかかわる」また「地域の方々の思いを知る」ことで、自分の居住地でも知らなかったことを発見できたり、自分の地域のよさや誇りを感じたりすることができる。そのことで自分をみつめ直したり、将来について考えたりできる機会にもなっている。
- ・また、3年間を通して段階的に体験活動を組み込むことで、インターネットや文献で調べるだけでは得られない新鮮な感動や思考の深まりがみられ、【かかわる】活動から【いきる】【そなえる】の大切さや意義についても実感させることができると考える。